

「つるに農事だより」



△小さな子でも上手に刈ることができました。

初めての稲刈りを体験しました

九月二十日（土）、今年五回目となる田んぼの学校農業体験「稲刈り」が田んぼの学校（水元地区水田）で行われました。

朝、集まった子どもたちは、指導員の産業観光課・佐藤農業振興班長からかまの使い方を聞いた後、田んぼに一行に並んで一束ずつ丁寧に稲を刈っていました。

初めてかまを持つ子どもは、最初恐る恐る一本ずつ刈っていました。慣れてくると一束をまとめていっぺんに「ザッ」と刈ることができました。刈り終わると束ねた稲を旧水元小学校の校庭のフェンスに干し、初めての稲刈り体験が終了しました。



△稲を運ぶのは3・4年生の仕事（富士見小）

各小学校で収穫の秋

管内小学校の水田で、秋の収穫「稲刈り」が行われました。

九月二十五日（木）は菖蒲川小学校、二十九日（月）は富士見小学校、三十日（火）は梅沢小学校、十月二日（木）は胡桃小学校で、それぞれ稲刈り学習が行われ、参加した児童たちが収穫の喜びを味わいました。

稲をかまで刈る作業では、昨年経験している六年生の手際の良さが目立ち、農作業を楽しむたくましさを感じました。

この収穫されたお米は、これから学校で行われる、餅つき大会のお餅や収穫祭のおにぎりとして子どもたちに振舞われます。

▽販売に役買った県産PRマスコット「決め手くん」



みんな応援します！
「決め手くん」が

スチューベンを販売

九月二十六日（金）、二十七日（土）の降ひょう被害にあったブドウ農家を支援するため、十月二日（木）午前十時から、道の駅つるた「鶴の里あるじや」で、ひょうにあたつてもたくましく実った奇跡の「スチューベン」ブドウの販売が始まりました。

生産者から持ち寄られたブドウは、傷ついた果実の部分を取り除いたもので、味は普通に売られているものと全く変わらず、お客様の中には五キロの箱で何箱も買われる方もいらつしました。話によるとむしろこちらのブドウの方が味が濃く甘いとのこと。

販売初日には、青森県産PRマスコット「決め手くん」が登場し、販売に役買っていました。皆さんもこの機会に奇跡の「スチューベン」を味わってみては！

◎広報つるた 有料広告募集のお知らせ

広報つるた有料広告の掲載を募集しております。毎月の発行部数は約5,000部で、全町に配布され多くの町民の方が目にします。広告を掲載したい企業・団体は、下記までお問い合わせください。なお、有料広告の内容等は、町の告知・案内等とは関係ございません。問い合わせ先…総務課 まちづくり班 ☎22-2111（内線263）

青森県直「リンゴ」現金にて高価買い取ります！

園地引取り！即・現金買取！

- ※各品種りんご木箱50ケース以上
- ※防除日誌などの栽培管理ができている方に限ります。
- ※上実～ハネ（欠点品）まで（見積もり無料）

ひょう害果実も高価買い取り

【参考価格】1,575円～3,150円（見積もり無料）

- ※各品種りんご木箱50ケース以上
- ※防除日誌などの栽培管理ができている方に限ります。
- ※生食用として使用できないものは、お引き取りできない場合があります。（木箱の貸し出しもいたします）

問合せ先

株式会社 諏訪商会 TEL (0172) 75-5770

〒038-3802

青森県南津軽郡藤崎町藤崎字西若松37-1

広報特派員 レポート



安全な作物を生産して 町の農業を盛り上げたい

北海道研修で大規模ブドウ園
地を視察する。(札幌市近郊)



鶴田町みどりの会では、農業後継者の育成、農業技術の向上、会員相互の親睦を図るため、畑作部と果樹部に分かれて、さまざまな事業を一年

を通して展開しています。今年、四人の新会員を迎え、会員数は三十八人となりました。

まず、畑作部では、夏野菜のジャガイモ、秋野菜のダイコン、カブの栽培を行っています。今年、ジャガイモの収穫は8月上旬に無事終え、一トンを超える収量を収穫することができました。このジャガイモは、学校給食の食材として提供しています。秋野菜も、先日、施肥、耕起、定植を無事終え、順調に生育しています。収穫まで手抜きのない管理をして、また学校給食に提供していきたいと思っています。

果樹部では、優良園地の視察、先輩方を招いての「冬期

剪定講習会」、町民文化祭での「贈答りんごの販売」などを行っています。優良園地の視察では、諸先輩方の優良園地に会員が出向き、技術や経営方法を教えていただき、自分たちの技術や経営の向上に努めています。また、町民文化祭での「贈答りんごの販売」は、会員各自が丹精を込めて栽培したリンゴを持ち寄り、会員みんなで評価して選別を行っているため、会員同士のよい刺激となり、品質の向上につながると考えています。

会全体の事業としては、県内外への研修、ナイター学習会などがあります。今年の県外研修は、七月二十八日(月)～三十一日(木)まで、北海

道の中央農業試験場、大規模経営の農家を二軒、川南鉄工所(札幌市内)を視察しました。中でも、大規模経営の農家には驚かされました。広大な農地面積と使用機械の大きさなど、鶴田とは規模が違います。また、北海道の気候は、植物にとっても良い環境で、なんでも育つ、そんな印象を受けました。

わたしは、みどりの会に入会して今年で十年になります。この間、多くの仲間と出会い、研修でいろいろなものを見たり、聞いたりして学びました。それらを自分の農業経営に生かして、より一層良い品質で安全な作物を生産していきたいと思っています。

浅利寿仁さん (鶴田町みどりの会 会長)

普段は無口であり語らず、温厚な性格の浅利さん。しかしいったん農業(リンゴ)のことを語り出すと止まらない。

これからの農業は品質重視。消費者が今何を求めているのかを素早くつかみ生産につなげるのが自分の農業スタイル。絶対にこれから農業時代がやってくると語ってくれた。

そして、みどりの会の事業で、鶴田町の農業が盛り上がってくれればと思っています。



みどりの会の仲間たちと憩いのひと時(北海道研修にて)